

2024年度 需要実績見込

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2024年度は、主要メーカーへの需要動向アンケートの結果及び2024年12月までの経産省統計値から、塗料需要の実績見込を前年度比96.2%（1,237千トン）と見込む。

※前年度実績値（2023年）は製造業実態調査から得られた推計値1,287千トンを使用。

需要産業区分		予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）
建 物		313	98.5%	都市部再開発の進行や大阪万博関連事業等の建設投資の増加も見られたが、全般的には消費マインドの冷え込みは一段と鮮明で、特に戸建てリフォームの不振で数量的にはやや前年割れの見込み。
建築資材		66	90.0%	建築資材価格は落ち着いてきたが、建設コストは高止まりしており、新設物件は低調でアルミ建材、PCM建材中心に不振が続いた。数量は大幅減の見通しとなった。
構造物		72	94.6%	高付加価値商品拡販で単価は上昇し、一部ではプラント需要、鉄塔案件での伸長も見られたが、市況は低迷しており特に新設は公共・民間需要とも減少傾向が続いた。
船 舶		114	103.8%	海運業界の好調な業績を受け造船需要は活況であった。大型、小型共に新造船向け塗料出荷量が堅調で、各分野が低調な中、数少ない好調分野となった。
道路車両	新車	219	95.3%	半導体不足の影響から脱し、国内の自動車生産は復調が期待されたが、自動車メーカーの認証不正等の問題の影響もあり、新車販売台数が減少したため数量減となった。
	補修	29	95.2%	補修自動車の在庫状況は前年度並みだが、構造的な作業人員の不足、働き方改革等、処理工数の慢性的不足が足枷となり、低調傾向が続いた。
電気機械		33	99.8%	半導体不足の影響が一服し、配電盤メーカーなどの需要も旺盛で、市況も回復傾向であるが、数量はほぼ前年並みを見込む。
機 械		53	88.7%	主力である建設機械の落ち込みに歯止めがかからず、農機関連の需要も弱含みで推移した。工作機械メーカーの需要減も影響し、大きく前年割れとなった。
金属製品		115	98.4%	鋼製家具等は堅調で、粉体塗料は安定した需要があったが、汎用メラミン、PCMとも大きな需要変動はなく全体的には微減で推移した。
木工製品		13	98.8%	建築市場で木材の採用を増やす動きがあるが、まだ実需には結びついていない。住宅着工数減少の影響も受け、木製家具など耐久消費財の売れ行きが停滞し前年をやや下回る見込み。
家庭用		23	96.9%	物価上昇の影響により一般消費者の需要マインドも低迷し、ホームセンター向け塗料は荷動きも弱く、数量は微減見込み。一方でネット販売等での売上は伸張している。
輸 出		59	90.3%	海外での市況好調で部分的には伸張も見られたが、主力の自動車関連輸出が日系メーカーの不振により低調で、その他機能品の輸出も減少し、全体としては前年割れが見込まれた。
路面標示		71	101.2%	東京都などからの発注が増加し、公共事業を中心に前年並みの売り上げを維持したが、トラフィックペイント、すべり止め工事などは低調で全体的には微増に留まる見込み。
その他		58	85.2%	皮革塗料は需要地で差があり、カラーバリエーションの多様化やエコ志向が高まっている。売上数量は全体的には国内市況低迷の影響や官需の減少も大きく、前年比減となった。
合 計		1,237	96.2%	船舶分野の堅調さはあるものの、その他分野の低調傾向が鮮明で前年を下回ると予測された。単価は上昇するも、円安による原料高、人手不足、建築コストの高止まり、さらには2024年問題による運搬費上昇の影響もあり数量減を見込む。

2025年度 需要予測

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2025年度は、公表されている政府、民間の経済見通し及び主要需要産業の2025年度の景気動向予測、並びに主要メーカーへのアンケート結果から前年度比100.9%（1,248千トン）と予測した。

※2024年度需要実績見込の予測数量を1,237千トン（前項）として計算。

需要産業区分		予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）
建 物		321	102.7%	人手不足や資材価格の高騰の継続は懸念されるが、都市部を中心とした大規模再開発需要が堅調に推移し、リフォーム市場や断熱塗料などの機能塗料の拡大も期待され微増を予想する。
建築資材		64	97.1%	高性能建材の需要は増加傾向にあるが、新設住宅着工件数の落ち込みは長期化し、材料価格の上昇も継続すると考えられるため需要減を予想する。
構造物		73	101.6%	大型需要となる案件は乏しく、特に新設は公共・民間需要とも減少傾向は続くが、鋼材量の需要予測により、ほぼ前年並みの見通し。
船 舶		111	97.8%	新造、修繕共にほぼ堅調に推移されると予想するが、海外情勢不安や前年の好調後の供給過多の懸念もあり、微減を見込む。
道路車両	新車	219	100.3%	主要顧客の生産回復が期待され、自動車生産台数も増加が予想されるが、アメリカによる関税処置が大きく影響を及ぼす可能性もあり、現状維持を見込む。
	補修	30	101.2%	自動車の安全装置普及もあり補修需要は微減傾向が続いているが、トラックなどの架装市場の活性化により全体需要としては、前年並みと予測する。
電気機械		33	102.2%	家電や事務機械等、市場の回復や成長の材料は乏しいが、配電盤や電子機械関連などは引き続き好調が見込まれ、大きな伸びはないが微増を予想する。
機 械		55	102.1%	海外情勢等もあり市況は不透明ではあるが、建設機械分野などの活発化も期待され、わずかではあるが拡販による数量増を見込む。
金属製品		121	105.1%	粉体塗料は引きつづき旺盛な需要の継続が期待され、その他新規獲得案件もあり、販売数量は前年を上回ると予測する。
木工製品		13	102.6%	住宅着工数の増加見込みは厳しいが、大型建築物での木材の需要増が見込まれる。室内家具向けの水性塗料や自然な質感を生かす塗料の伸びも期待され、前年微増を予想する。
家庭用		24	105.2%	賃上げ機運の高まりで、個人消費を取り巻く環境が良好な状態となることを期待する。ホームセンター需要の増加も見込み、販売増加を予想する。
輸 出		58	99.4%	引き続き海外情勢が不透明であり、関税問題等輸出環境はより厳しくなると考えられる。日系自動車メーカーの不調も継続し、前年比微減を予測する。
路面標示		69	97.4%	道路インフラ整備での塗り替え需要は堅調と予想し、公共事業を中心に営業活動を行い販売増加を目指す。原材料の高騰に伴う価格改定の影響もあり、微減を予想する。
その他		56	95.3%	皮革、紙塗工その他市況の低迷見通しが継続し、前年割れを予想。
合 計		1,248	100.9%	前年度の低調傾向から完全には脱せず、全体的には今だ予断を許さない状況ではあるが、電気機械・機械・金属製品など工業関連はわずかながら回復傾向で、粉体や機能性塗料市場の成長も見込まれる。ほぼ前年度維持を予想するが、さらなる回復を期待したい。